

読者の声

■心理学ワールドが51号からリニューアルされて、とても読みやすくなりました。表紙のデザインの変更や、ページ数の増加もさることながら、本文がカラーページになったことがとてもうれしく思います。心理学の図版や歴史的な史料、写真等の中には、白黒では表現できないものがたくさんあります。次号からは記事の中身も新しくなるということです。今後は、カラーならではの特集や記事が読めるようになることを楽しみにしています。(20代男性)

■51号の守屋慶子先生の文章を読ませていただきましたが、とくに、最後の「Give and take」と「自力志向」の項が興味深かったです。研究とは直接関係のないテーマであっても、物事の全体にアンテナをはっておく姿勢からは、得ることが大きいと思いました。(余談ですが、ちょうど先日、書店で手に取ったらそのまま最後まで読んでしまった絵本がありました。それが、ここで紹介されていたシルヴァスタインの『大きな木』(原題：The Giving Tree)でした。訳者は村上春樹さん。一本の木と一人の人間の交流が描かれた本書は、読み終えた私に、ことばにはなりづらい感情を残す作品でした。) (20代女性)

■毎号、楽しみに読ませていただいています。心理学の最前線にいらっしゃる先生方の文章には、好奇心を刺激され、各分野の知識も幅広く得られて、自分の興味の範囲

を広げるうえでもたいへん役に立っています。また、先生方のこれまでの研究の歩みなどを知ることができるのも貴重です。テキストよりは気軽に読めて、エッセイよりも専門性が高い。ちょっとした空き時間に読み進めるうちに、これから学ぶべき方向性や、時代が求める心理学のスタイルが、自分なりに見えてくる気がしています。手軽に持ち歩ける大きさも気に入っています。表紙のデザインも一新されましたね。カラーページやレイアウトのセンスアップもあって、いっそう読みやすさが増しました。これからも新しい「心理学ワールド」に期待しています。(30代女性)

■51号特別企画の、守屋先生の論説記事「教育と研究の狭間で」を読みました。「日本の子どもは、十数年来、親や社会から自力志向を強いられてきた」という先生の文化間比較研究によるご指摘に、はたとしました。私はいま30代半ばなのですが、そういえば子どもの頃、ドラえもんが登場する「のび太くん」が大嫌いだったのです。その理由は、のび太くんがドラえもんになにかと頼りすぎていることが、観ていて当時の子どもごろに非常に不愉快に感じられたからでした。その頃の自分を改めて振り返れば、友達やきょうだいにきびしい一面をもち、ころにあまり余裕があるとはいえない子どもだったような気がします。「自力志向は孤立感を引き寄せ、Give and takeは人に優しくなれる」という先生のご賢察は、まさに日本の社会が今なお見落と

している問題の核心をつく言葉だなあ、と思います。2010年は、学校での子どもの暴力件数が過去最多であるというニュースが報じられました。また、日本では子どもや大人を問わずうつ病が増加の一途を辿っているようですが、ひょっとして、こういう育ち方や価値観を踏襲しつづけていることにも、問題の根っここのひとつがあるのかもしれないね。(30代男性)

■心理学ワールド51号の特集「日本の心理学 これまでとこれから」を、興味深く拝読させていただきました。各先生の記事から、日本における心理学の研究水準の高さが窺え、非常に頼もしく感じました。2016年の国際心理学会議が横浜で開催されることになったということで、日本の心理学の成果をこれまで以上に世界に発信する好機だと思います。心理学に携わる者のひとりとして、私も微力ながら、日本の心理学の発展に寄与していきたいと思います。(40代男性)

■『心理学ワールド』51号、リニューアルお祝い申し上げます。私の専門は心理学ではないのですが、仕事上、なんとなくでも知っておく必要があります。その際『心理学ワールド』は貴重な情報源となっております。日本の新聞書評で心理学書が紹介されることは少ないなかで、「自著を語る」のコーナーは重要な読書案内だと思います。あらためてではございますが、日本心理学会のさらなる発展をお祈り申し上げます。(40代男性)

読者の声 投稿募集中!

新しくなった『心理学ワールド』への、ご意見・ご感想をお待ちしています。

●送付先

〒101-0051 千代田区神田神保町2-10 (株)新曜社 第一編集部
morimitsu@shin-yo-sha.co.jp

投稿は、お葉書・Eメールどちらでもけっこうです。世代と性別をあわせてお知らせください。